

2010年度 特別支援教育研究委員会 総括

1. 本年度の目標

次のテーマを掲げ、本年度の目標としました。

- LD・AD/HD等、課題がある生徒の支援のあり方に関する研究
- その他の特別支援教育について、諸課題の調査研究

2. 本年度の活動

- ① 5月28日(金) 橿原市中央公民館
- ② 6月25日(金) 京都府立八幡支援学校
- ③ 9月17日(金) 橿原市中央公民館
- ④ 10月22日(金) 奈良県立教育研究所・奈良県総合リハビリセンター
- ⑤ 1月14日(金) 橿原市中央公民館

第1回 特別支援教育研究委員会：「本年度の目標と活動内容の決定」

本年度の目標や具体的な研修・活動内容について話し合い、決定しました。

第2回 特別支援教育研究委員会：「京都府立八幡支援学校に学ぶ」

障害児(者)教育研究委員会と合同で、京都府立八幡支援学校を訪問し、先進的な特別支援教育の取り組みと施設環境を視察しました。

八幡支援学校は本年度4月に、障害のある児童・生徒の教育のためのセンター的機能を備えた学校として、京都八幡高等学校と同一敷地内に開校された全国初の特別支援学校です。

当日は、最初に「発達障害の理解とその対応」という主題で、大東弘明先生から、発達障害の理解や対応(ストレスマネジメントやクールダウン)の仕方、巡回相談活動の事例、就労への取り組み、高大連携の必要性、外国の特別支援教育の現状等に関して詳しくお話をいただきました。特に、生徒のコミュニケーションスキル、ワーキングソーシャルスキルを伸ばすことにより、「社会で暮らしていく」力へとつなげていく取り組みはあらゆる学校で活用できるものであると感じました。一人一人の生徒に対するきめこまやかな理解と支援のあり方に感銘を受けると同時に、受け入れ側の豊富な知識、情報収集や特性理解に向けてのアセスメントの必要性も痛感しました。

また、施設見学では、ノーマライゼーション、リハビリテーションなどを考慮したすばらしい施設、ユニバーサルデザインの活用などに感動するばかりでした。

最後に山田和孝校長先生から、開校に向けての取り組み、教育課程、地域や保健、医療、福祉、労働の分野の連携の必要性などについて詳しくお話しいただきました。

研修を通して、特別支援教育の理解を大いに深めることができ、今後の取り組みにぜひ活かしていきたいです。

第3回 特別支援教育研究委員会：「発達障がいについて学ぶ」

(奈良)学習・発達支援センターの前川孝士氏より、「発達障がいの理解」と題して講演をしていただきました。

勉強が努力不足でできないのではなく、英単語が覚えられない生徒や、文字の線が何重にも見え漢字の習得に膨大な時間がかかる生徒や、行をとばして読んでも気付かない生徒の存在に、塾経営者として前川氏は気付き、LDの理解に取り組んだことをきっかけに、LD(学習障害)やPDD(広汎性発達障害)AD/HD(注意欠陥/多動性障害)など、脳の障害や伝達物質の不足から起こってくる生徒達の状況を理解し、そう言った子ども達に対応する活動を行っていることを話されました。それぞれの障害に対する説明や、障害

から生じてくる子ども達の状況を理解するのに大変役立つお話を聞かせていただきました。また、前川氏は『有限会社結崎アカデミー』でそういった子ども達や親に対するきめ細かな学習支援や相談活動などもされており、時間が許せばもっと詳しくお話を伺いたいという声が多かった有意義な研修が行えた2時間半でした。講演後の感想には、「医学的なことも含め発達障がいについて有意義な研修をさせていただいた。生徒を叱って指導してきたが、勉強に取りくめない障がいのある生徒には人権の面からも支援が必要であり、親の協力や理解も含め、取り組んでいくべきだ」などという感想がありました。

午後は、DVDクローズアップ現代「アスペルガー症候群の活躍の場を求めて」を鑑賞しました。

社会人となって深刻なアスペルガー症候群の症状に悩む人の多さや、彼らを受け入れていこうとする企業の取り組みがあることに可能性を感じ、周囲の人の理解がいかに不可欠かが確認されました。

第4回 特別支援教育研究委員会

：「発達障害について学び、リハビリセンターにて学ぶ」

午前中は教育研究所において、特別支援教育企画室の福井康博先生より“発達障害”について具体的な例にも触れながら、ご講演をしていただきました。説明がわかりやすく、明解であり、各委員が疑問に思っていたことに答えてくださったように思います。質疑応答も、事例も取り上げるなど深い内容で、研究委員会としても大変有意義な研修だったと考えています。

午後からは場所を奈良県総合リハビリセンターに移し、研修を行いました。リハビリセンターでは施設やリハビリの様子を見学させていただきました。また、併設されている作業施設では、「障害」のある方々の製品を作る作業についても説明をうけ、見学もさせていただきました。我々が身近で使っているものが多くあり、驚きました。ただ、作業されている方の利益にはなかなか結びつかないという点については考えさせられました。

第5回 特別支援教育研究委員会：「本年度のまとめと総括」

本研究委員会の活動等について、まとめと総括を行いました。

3. 成果と課題

京都府立八幡支援学校では、施設設備はもちろん、先進的な取り組みが行なわれていました。特に地域や高校・大学を取り込んだ活動には感心させられました。また、前川孝士氏や福井康博先生の講演では、「発達障害」について多くの事を学ばさせていただきました。特に、福井先生の「発達障害」の区分の仕方や説明は明確で、研究委員の疑問の多くを解決していただきました。これらの研修は研究委員にとって大変有意義なものとなりました。

ただ、我々が学んだ内容を各校でいかに活用するか、またいかに高人教の全体のものにするかが今後の大きな課題だと考えます。さらに、地域の特別支援学校を学びの支援センターとして活用し、中学と高校そして大学等その他の学校との連携を深めるなかで、個々の生徒を支援する取り組みをする必要があると考えます。

* 参考資料

相談窓口の一覧は、下記に表示されています。

www.nara-c.ed.jp/tokubetu/pdf/madoguchi.pdf-html

(「相談支援窓口 奈良県」でも検索できます)